

ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Aコース／Bコース

運用報告書(全体版)

第19期(決算日2022年11月18日)

作成対象期間(2021年11月19日～2022年11月18日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。

なお、当ファンドは、2022年8月12日に信託期間を延長する約款変更を行ない、信託期間終了日は2028年11月20日となりましたので、ご留意下さい。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

●当ファンドの仕組みは次の通りです。

	Aコース	Bコース
商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2003年11月19日から2028年11月20日までです。	
運用方針	世界主要市場のバイオテクノロジー関連企業の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行なうことを基本とします。世界のバイオテクノロジー関連企業の中から高い成長が期待される企業の株式を医学・薬学的視点から調査、評価して投資銘柄を選定します。	
	実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを目指します。	実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
主な投資対象	ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Aコース/Bコース	ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	世界主要市場のバイオテクノロジー関連企業の株式を主要投資対象とします。
主な投資制限	ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Aコース/Bコース	株式への実質投資割合には制限を設けません。外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
	マザーファンド	株式への投資割合には制限を設けません。ただし、未上場・未登録の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
分配方針	毎決算時に、原則として繰越分を含めた配当等収益と売買益等から、基準価額の水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。	

野村アセットマネジメント

東京都江東区豊洲二丁目2番1号



サポートダイヤル 0120-753104
(受付時間) 営業日の午前9時～午後5時

ホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

<Aコース>

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額			参考指数		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
	(分配落)	税込分配金	期騰落率	ナスダック・バイオテクノロジー株指数 (円ヘッジベース)	期騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
15期(2018年11月19日)	20,171	900	△ 4.3	387.78	△ 1.0	95.8	—	57,653
16期(2019年11月18日)	20,974	1,000	8.9	399.46	3.0	96.2	—	45,496
17期(2020年11月18日)	26,336	1,300	31.8	497.11	24.4	93.3	—	28,050
18期(2021年11月18日)	24,150	1,200	△ 3.7	540.51	8.7	97.2	—	20,237
19期(2022年11月18日)	18,903	950	△17.8	465.92	△13.8	92.8	—	14,407

*基準価額は分配金込み。

*当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

*株式先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

*参考指数(=ナスダック・バイオテクノロジー株指数(円ヘッジベース))は、ナスダック・バイオテクノロジー株指数(US\$ベース)を当社が独自にヘッジコストを考慮して円換算したものです。
(出所)ブルームバーグ

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		参考指数		株式組入比率	株式先物比率
	騰落率	騰落率	ナスダック・バイオテクノロジー株指数 (円ヘッジベース)	騰落率		
(期首) 2021年11月18日	円	%		%	%	%
11月末	24,150	—	540.51	—	97.2	—
12月末	23,250	△ 3.7	541.61	0.2	93.1	—
2022年1月末	23,497	△ 2.7	531.30	△ 1.7	97.1	—
2月末	19,062	△21.1	453.51	△16.1	97.6	—
3月末	19,231	△20.4	448.79	△17.0	97.4	—
4月末	19,617	△18.8	467.34	△13.5	97.5	—
5月末	17,578	△27.2	431.06	△20.3	95.5	—
6月末	17,396	△28.0	423.83	△21.6	97.3	—
7月末	18,284	△24.3	421.31	△22.1	96.4	—
8月末	19,207	△20.5	437.08	△19.1	94.0	—
9月末	19,508	△19.2	427.95	△20.8	95.6	—
10月末	19,154	△20.7	418.35	△22.6	95.8	—
11月末	19,898	△17.6	457.22	△15.4	98.0	—
(期末) 2022年11月18日	円	%		%	%	%
	19,853	△17.8	465.92	△13.8	92.8	—

*期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

*当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

*株式先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

<Bコース>

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)			参考指数 ナスダック・バイオテクノロジー株指数 (円換算ベース)		株組入比率	株先物比率	純資産額
	税込 分配	み 金 騰 落	期中 騰 落 率	期 騰 落	中 騰 落 率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
15期(2018年11月19日)	23,684	1,200	△ 1.9	520.94	1.9	96.3	—	59,150
16期(2019年11月18日)	24,147	1,400	7.9	533.08	2.3	96.2	—	45,226
17期(2020年11月18日)	28,991	1,500	26.3	643.01	20.6	94.8	—	30,332
18期(2021年11月18日)	29,212	1,500	5.9	770.40	19.8	97.2	—	24,916
19期(2022年11月18日)	28,491	1,400	2.3	829.19	7.6	93.5	—	22,062

*基準価額の騰落率は分配金込み。

*当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

*株式先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

*参考指数(=ナスダック・バイオテクノロジー株指数(円換算ベース))は、ナスダック・バイオテクノロジー株指数(US\$ベース)を当社が独自に円換算したものです。
(出所) ブルームバーグ

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		参考指数 ナスダック・バイオテクノロジー株指数 (円換算ベース)		株組入比率	株先物比率
	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率		
(期首) 2021年11月18日	円	%		%	%	%
11月末	29,212	—	770.40	—	97.2	—
12月末	28,019	△ 4.1	769.27	△ 0.1	93.1	—
2022年1月末	28,645	△ 1.9	763.45	△ 0.9	97.1	—
2月末	23,309	△20.2	654.22	△15.1	97.6	—
3月末	23,534	△19.4	648.19	△15.9	97.4	—
4月末	25,427	△13.0	715.57	△ 7.1	97.5	—
5月末	23,941	△18.0	695.24	△ 9.8	95.4	—
6月末	23,628	△19.1	680.81	△11.6	97.0	—
7月末	26,448	△ 9.5	722.32	△ 6.2	96.4	—
8月末	27,403	△ 6.2	739.31	△ 4.0	95.2	—
9月末	28,710	△ 1.7	747.16	△ 3.0	95.6	—
10月末	29,490	1.0	764.78	△ 0.7	95.7	—
(期末) 2022年11月18日	31,449	7.7	858.23	11.4	97.9	—
	29,891	2.3	829.19	7.6	93.5	—

*期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

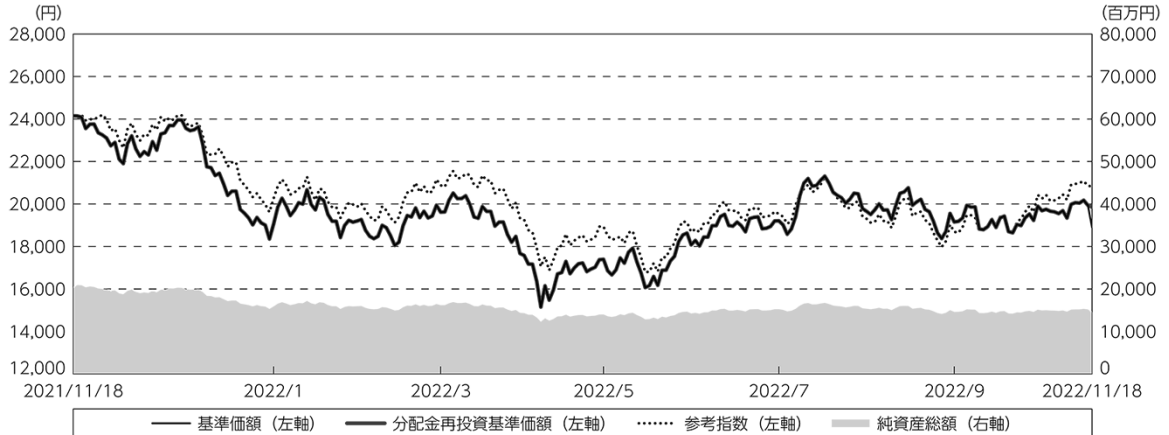
*当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

*株式先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

<Aコース>

◎運用経過

○期中の基準価額等の推移



期 首：24,150円

期 末：18,903円 (既払分配金(税込み)：950円)

騰落率：△17.8% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2021年11月18日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 参考指数は、ナスダック・バイオテクノロジー株指数(円ヘッジベース)です。参考指数は、作成期首(2021年11月18日)の値が基準価額と同一となるように計算しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首24,150円から期末18,903円となりました。

- (下落) 新型コロナウイルス向けワクチン開発企業が今年の売上げ見通しを引き下げたこと、ロシアによるウクライナへの侵攻を受け、バリュエーション(投資価値評価)の高い銘柄を中心に下落したこと、FOMC(米連邦公開市場委員会)で2022年3月の利上げ開始が示唆されるなど金融引き締めめに前向きな方針が示されたこと
- (上昇) 3月のFOMCが市場予想と同じく0.25%の政策金利引き上げを決定し重要イベントを通過したこと、ロシアとウクライナの停戦交渉進展への期待が高まったこと、バリュエーションの高い銘柄を中心に買い戻しの動きが強まったこと

<Aコース>

- (下落) FRB（米連邦準備制度理事会）理事が資産圧縮を「5月にも急ピッチで始める」と発言するなど、金融引き締め姿勢の強まりに対する懸念が広がったこと、物価上昇が業績への重石になるとの見方を示す企業が多く、企業業績への警戒感が強まったこと
- (上昇) 米大手製薬企業による買収報道が相次いだこと、4－6月期の企業業績の発表で市場予想を上回る好決算が相次いだこと、7月のFOMCにおいて市場想定通り0.75%の政策金利引き上げを決定し、過度な金融引き締め懸念が後退したこと
- (下落) ワイオミング州のジャクソンホールで開かれた経済シンポジウムにおいてFRBのパウエル議長がインフレ抑制を最優先に利上げを継続する方針を示したことで、早期の利下げ期待が後退したこと、8月の米CPI（消費者物価指数）上昇率が市場予想を上回ったこと、インフレが抑制されるまで利上げを継続するという米金融当局の姿勢が改めて示されたこと
- (上昇) 9月の米ISM製造業景況指数が市場予想を下回ったことなどから、労働需給の緩和が期待され過度な引き締め懸念が和らいだこと、一部メディアが、米金融当局が年内に利上げペースの減速を協議する可能性を報道したこと、7－9月期決算が市場予想を上回った大手バイオテクノロジー企業の株価が上昇したこと

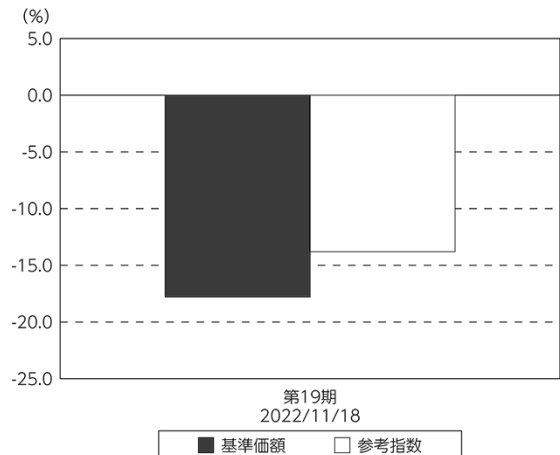
○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

コメント・グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

参考指数としているナスダック・バイオテクノロジー株指数（円ヘッジベース）の13.8%の下落に対し、基準価額は17.8%の下落となりました。主なマイナスの差異要因としては、株価騰落率が参考指数を上回ったアムジェン株やバーテックス・ファーマシューティカルズ株などをアンダーウェイト（参考指数と比べ低めの投資比率）とし、株価騰落率が参考指数を下回った中小型バイオテクノロジー株などをオーバーウェイト（参考指数と比べ高めの投資比率）としていたことなどが挙げられます。

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) 参考指数は、ナスダック・バイオテクノロジー株指数（円ヘッジベース）です。

<Aコース>

◎分配金

基準価額水準などを勘案し、1万口当たり950円の収益分配を行ないました。なお、留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税込み)

項 目	第19期
	2021年11月19日～ 2022年11月18日
当期分配金 (対基準価額比率)	950 4.785%
当期の収益	—
当期の収益以外	950
翌期繰越分配対象額	14,076

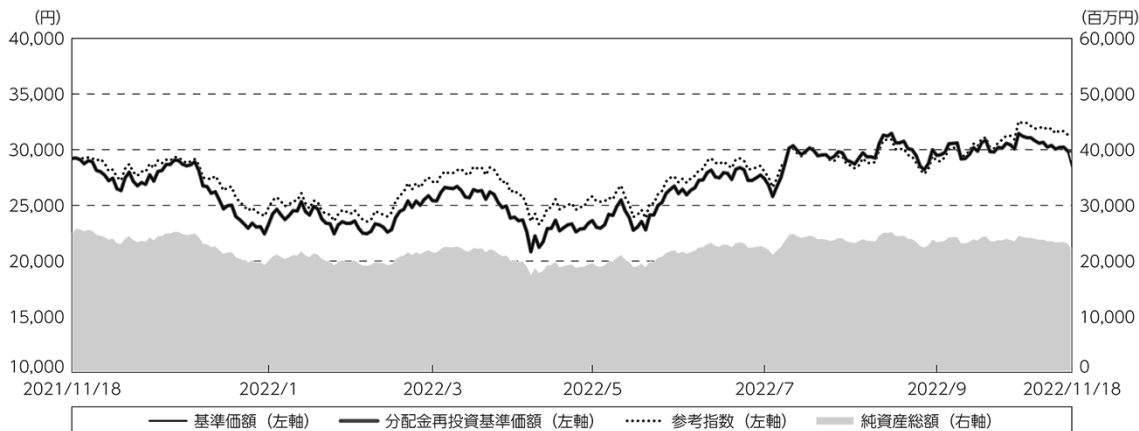
(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

<Bコース>

◎運用経過

○期中の基準価額等の推移



期首：29,212円

期末：28,491円 (既払分配金 (税込み) : 1,400円)

騰落率： 2.3% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首 (2021年11月18日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 参考指数は、ナスダック・バイオテクノロジー株指数 (円換算ベース) です。参考指数は、作成期首 (2021年11月18日) の値が基準価額と同一となるように計算しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首29,212円から期末28,491円となりました。

- (下落) 新型コロナウイルス向けワクチン開発企業が今年の売上げ見通しを引き下げたこと、ロシアによるウクライナへの侵攻を受け、バリュエーション (投資価値評価) の高い銘柄を中心に下落したこと、FOMC (米連邦公開市場委員会) で2022年3月の利上げ開始が示唆されるなど金融引き締めめに前向きな方針が示されたこと
- (上昇) 3月のFOMCが市場予想と同じく0.25%の政策金利引き上げを決定し重要イベントを通過したこと、ロシアとウクライナの停戦交渉進展への期待が高まったこと、バリュエーションの高い銘柄を中心に買い戻しの動きが強まったこと

<Bコース>

- (下落) FRB（米連邦準備制度理事会）理事が資産圧縮を「5月にも急ピッチで始める」と発言するなど、金融引き締め姿勢の強まりに対する懸念が広がったこと、物価上昇が業績への重石になるとの見方を示す企業が多く、企業業績への警戒感が強まったこと
- (上昇) 米大手製薬企業による買収報道が相次いだこと、4－6月期の企業業績の発表で市場予想を上回る好決算が相次いだこと、7月のFOMCにおいて市場想定通り0.75%の政策金利引き上げを決定し、過度な金融引き締め懸念が後退したこと、為替市場でドル高・円安が進んだこと
- (下落) ワイオミング州のジャクソンホールで開かれた経済シンポジウムにおいてFRBのパウエル議長がインフレ抑制を最優先に利上げを継続する方針を示したことで、早期の利下げ期待が後退したこと、8月の米CPI（消費者物価指数）上昇率が市場予想を上回ったこと、インフレが抑制されるまで利上げを継続するという米金融当局の姿勢が改めて示されたこと
- (上昇) 9月の米ISM製造業景況指数が市場予想を下回ったことなどから、労働需給の緩和が期待され過度な引き締め懸念が和らいだこと、一部メディアが、米金融当局が年内に利上げペースの減速を協議する可能性を報道したこと、7－9月期決算が市場予想を上回った大手バイオテクノロジー企業の株価が上昇したこと、為替市場でドル高・円安が進んだこと

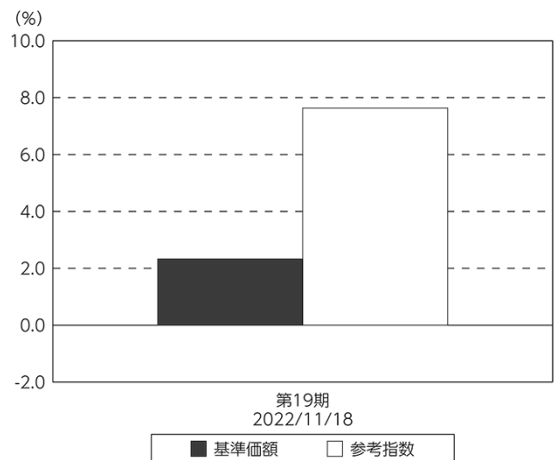
○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

コメント・グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

参考指数としているナスダック・バイオテクノロジー株指数（円換算ベース）の7.6%の上昇に対し、基準価額は2.3%の上昇となりました。主なマイナスの差異要因としては、株価騰落率が参考指数を上回ったアムジェン株やバーテックス・ファーマシューティカルズ株などをアンダーウェイト（参考指数と比べ低めの投資比率）とし、株価騰落率が参考指数を下回った中小型バイオテクノロジー株などをオーバーウェイト（参考指数と比べ高めの投資比率）としていたことなどが挙げられます。

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) 参考指数は、ナスダック・バイオテクノロジー株指数（円換算ベース）です。

<Bコース>

◎分配金

基準価額水準などを勘案し、1万口当たり1,400円の収益分配を行ないました。なお、留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税込み)

項 目	第19期
	2021年11月19日～ 2022年11月18日
当期分配金	1,400
(対基準価額比率)	4.684%
当期の収益	817
当期の収益以外	582
翌期繰越分配対象額	18,490

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

<Aコース/Bコース>

○投資環境

期中のナスダック・バイオテクノロジー株指数は、ロシアによるウクライナへの侵攻や、FOMCによる金融引き締めペースに対する市場の見方が不安定な状況が続く環境下、下落基調で推移しました。その後、米大手製薬企業による買収報道が相次いだことや、大手バイオテクノロジー企業の業績が好感されたことなどから反発しました。期末にかけては、7-9月期決算で良好な業績見通しを示す企業が相次いだことなどから続伸し、前期末比でプラスとなりました。

為替市場では、期初の114円台で始まったドル円レートは、日米の金利差拡大などからドルが円に対し上昇基調となり、一時は151円台までドル高・円安が進みましたが、期末には140円台となりました。

<Aコース/Bコース>

○当ファンドのポートフォリオ

[ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Aコース] および [ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Bコース] は、主要投資対象である [ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド] 受益証券を高位に組み入れました。

[ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド]

・株式組入比率

期を通じておおむね高位を維持しました。

・期中の主な動き

- (1) 世界のバイオテクノロジー関連企業の中から高い成長が期待される企業の株式を医学・薬学的視点から調査、評価して投資銘柄を選定しました。
- (2) 画期的、かつニーズが高く将来性が期待される薬品や既存薬にない特徴を有した薬品で、開発の最終段階に近づいている企業などに注目した他、バイオテクノロジー業界内で多くの新興企業の中から銘柄を発掘するなど、厳選した企業に対する投資を行なって参りました。
- (3) また、薬価問題への関心が高まる中、高いイノベーション（技術革新）能力と戦略的展望のある企業にも注目し、ファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）分析を行なった他、科学面および臨床データの評価や、未だ満たされていない医療ニーズの重要度、薬価や治療薬への患者のアクセスの妥当性、などを考慮し銘柄選定を行ないました。

[ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Aコース]

・株式組入比率

実質株式組入比率は、期を通じておおむね高位を維持しました。

・為替ヘッジ

当ファンドの運用の基本方針に従い、実質外貨建資産に対して対円での為替ヘッジを行ない、為替変動リスクの低減を図りました。

[ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Bコース]

・株式組入比率

実質株式組入比率は、期を通じておおむね高位を維持しました。

・為替ヘッジ

当ファンドの運用の基本方針に従い、為替ヘッジを行ないませんでした。

<Aコース/Bコース>

◎今後の運用方針

[ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド]

・投資環境

足元のバイオ医薬品株式市場では、資金調達環境の厳しさも緩和しつつあり、M&A（企業の合併・買収）の動きが増加するなど良い兆候がみられ始めています。また、これから重要な治験結果の発表を控えていることも注目されます。

中長期的には、医薬品に関連する医療費についての議論が大きく変化していることがわかります。いくつかの国では治療の有効性に応じて医療費を支払う制度（価値に基づく医療）が利用されていますが、処方薬で最大のマーケットである米国においても、同様の制度を求める声は、ますます大きくなっています。医薬品企業と同様に、政府、規制当局、保険業者は、医薬品の開発においてイノベーションを抑制することなく、医薬品の費用を効率的に管理することができる妥協案を見つけることを必要としています。最も重要な利害関係者である患者は、破産のリスクにさらされることなく、高品質の治療を受けたいと考えています。これは、治療薬の開発といった科学的側面だけでなく、ビジネスモデルや先進的な思考、価値に基づいた契約といった側面においてもイノベーションを生む最高の機会となると考えます。

・運用方針

当ファンドは引き続き、堅固な事業基盤を有し、優秀な経営陣を擁する企業を厳選し、高いイノベーション能力と強い戦略的展望のある企業を選定することが、投資家の利益につながると思います。綿密なファンダメンタルズ分析と科学面および臨床データの評価に加え、未だ満たされていない医療ニーズを満たすような薬や新薬候補を有する企業に注目していく方針です。

[ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Aコース]

主要投資対象である [ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド] 受益証券を高位に組み入れ、実質外貨建資産については為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを目指します。

[ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Bコース]

主要投資対象である [ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド] 受益証券を高位に組み入れ、実質外貨建資産については為替ヘッジを行わない方針です。

今後とも引き続きご愛顧賜りますよう、よろしく願いいたします。

<Aコース>

○ 1 万口当たりの費用明細

(2021年11月19日～2022年11月18日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 410	% 2.090	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(216)	(1.100)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
（ 販 売 会 社 ）	(173)	(0.880)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
（ 受 託 会 社 ）	(22)	(0.110)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 売 買 委 託 手 数 料	14	0.074	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 株 式 ）	(14)	(0.074)	
(c) 有 価 証 券 取 引 税	0	0.001	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（ 株 式 ）	(0)	(0.001)	
(d) そ の 他 費 用	5	0.024	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(4)	(0.020)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	(1)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	429	2.189	
期中の平均基準価額は、19,640円です。			

* 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

* 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

* 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

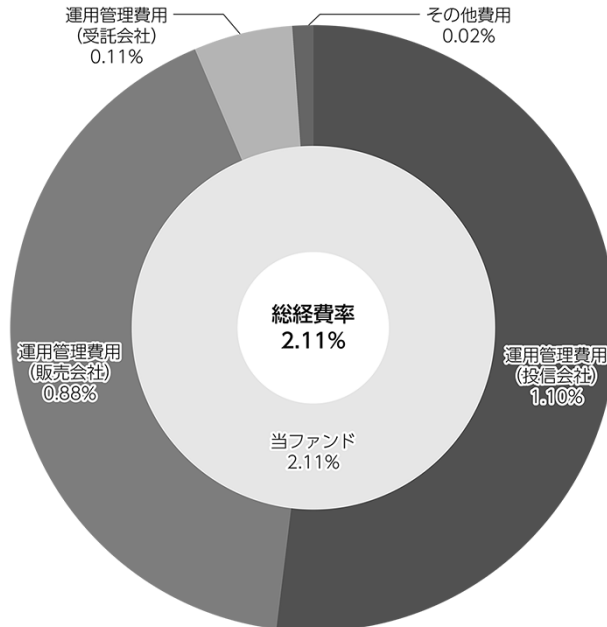
* 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

<Aコース>

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.11%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

<Aコース>

○売買及び取引の状況

(2021年11月19日～2022年11月18日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド	1,449,026	9,521,145	2,367,586	15,477,650

*単位未満は切り捨て。

○株式売買比率

(2021年11月19日～2022年11月18日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額	60,388,245千円	
(b) 期中の平均組入株式時価総額	36,641,582千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.64	

* (b) は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2021年11月19日～2022年11月18日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2022年11月18日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド	2,825,304	1,906,744	14,153,385

*口数・評価額の単位未満は切り捨て。

親投資信託における組入資産の明細につきましては、後述の親投資信託の「運用報告書」をご参照ください。

<Aコース>

○投資信託財産の構成

(2022年11月18日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド	14,153,385	92.2
コール・ローン等、その他	1,204,719	7.8
投資信託財産総額	15,358,104	100.0

*金額の単位未満は切り捨て。

*ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（36,982,503千円）の投資信託財産総額（38,330,116千円）に対する比率は96.5%です。

*外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=140.29円、1スイスフラン=147.39円、1デンマーククローネ=19.56円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2022年11月18日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	29,134,326,346
コール・ローン等	20,772,667
ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド(評価額)	14,153,385,553
未収入金	14,960,168,126
(B) 負債	14,727,077,234
未払金	13,807,704,886
未払収益分配金	724,068,655
未払解約金	38,691,431
未払信託報酬	156,365,407
未払利息	32
その他未払費用	246,823
(C) 純資産総額(A-B)	14,407,249,112
元本	7,621,775,325
次期繰越損益金	6,785,473,787
(D) 受益権総口数	7,621,775,325口
1万口当たり基準価額(C/D)	18,903円

(注) 期首元本額は8,379,972,071円、期中追加設定元本額は591,874,824円、期中一部解約元本額は1,350,071,570円、1口当たり純資産額は1.8903円です。

(注) 投資信託財産の運用の指図に係わる権限の全部又は一部を委託する為に要する費用、支払金額285,154,822円。(ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド)

○損益の状況 (2021年11月19日～2022年11月18日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 74,977
支払利息	△ 74,977
(B) 有価証券売買損益	△2,821,386,223
売買益	2,905,502,950
売買損	△5,726,889,173
(C) 信託報酬等	△ 332,384,839
(D) 当期損益金(A+B+C)	△3,153,846,039
(E) 前期繰越損益金	1,740,304,020
(F) 追加信託差損益金	8,923,084,461
(配当等相当額)	(8,990,079,564)
(売買損益相当額)	(△ 66,995,103)
(G) 計(D+E+F)	7,509,542,442
(H) 収益分配金	△ 724,068,655
次期繰越損益金(G+H)	6,785,473,787
追加信託差損益金	8,923,084,461
(配当等相当額)	(8,990,277,843)
(売買損益相当額)	(△ 67,193,382)
分準備積立金	1,738,714,207
繰越損益金	△3,876,324,881

*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

*損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

*損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

<Aコース>

(注) 分配金の計算過程 (2021年11月19日～2022年11月18日) は以下の通りです。

項 目	当 期
	2021年11月19日～ 2022年11月18日
a. 配当等収益(経費控除後)	0円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	0円
c. 信託約款に定める収益調整金	8,990,277,843円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	2,462,782,862円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	11,453,060,705円
f. 分配対象収益(1万円当たり)	15,026円
g. 分配金	724,068,655円
h. 分配金(1万円当たり)	950円

○分配金のお知らせ

1万円当たり分配金(税込み)	950円
----------------	------

※分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合、分配金は全額普通分配金となります。

※分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合、分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金(特別分配金)となります。

※分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合、分配金は全額元本払戻金(特別分配金)となります。

○お知らせ

- ①ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンドの運用の外部委託先であるピクテ投信投資顧問株式会社の名称をピクテ・ジャパン株式会社に変更する所要の約款変更を行ないました。
 <変更適用日：2022年7月1日>
- ②信託期間を5年更新し、信託期間終了日を2028年11月20日とする所要の約款変更を行ないました。
 <変更適用日：2022年8月12日>

<Bコース>

○ 1 万口当たりの費用明細

(2021年11月19日～2022年11月18日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 557	% 2.090	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(293)	(1.100)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
（ 販 売 会 社 ）	(235)	(0.880)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
（ 受 託 会 社 ）	(29)	(0.110)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 売 買 委 託 手 数 料	20	0.075	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 株 式 ）	(20)	(0.075)	
(c) 有 価 証 券 取 引 税	0	0.001	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（ 株 式 ）	(0)	(0.001)	
(d) そ の 他 費 用	6	0.024	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(5)	(0.020)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	(1)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	583	2.190	
期中の平均基準価額は、26,666円です。			

* 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

* 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

* 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

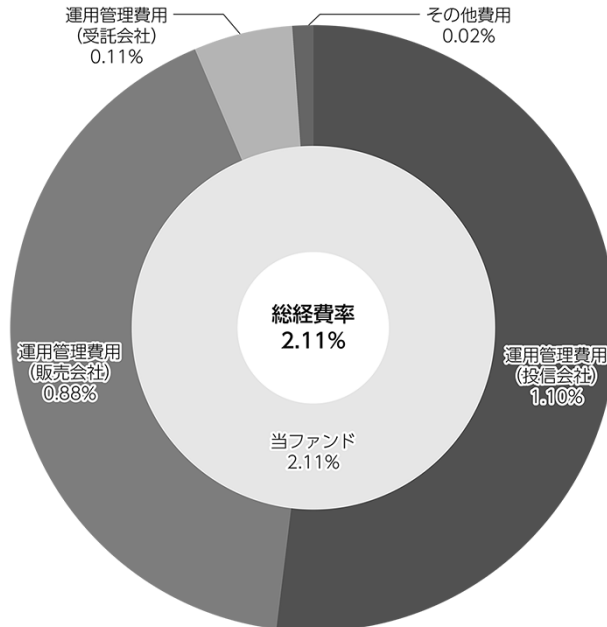
* 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

<Bコース>

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.11%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

<Bコース>

○売買及び取引の状況

(2021年11月19日～2022年11月18日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド	1,615,992	10,727,129	2,150,262	14,398,253

*単位未満は切り捨て。

○株式売買比率

(2021年11月19日～2022年11月18日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額	60,388,245千円	
(b) 期中の平均組入株式時価総額	36,641,582千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.64	

* (b) は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2021年11月19日～2022年11月18日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2022年11月18日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド	3,478,976	2,944,706	21,857,968

*口数・評価額の単位未満は切り捨て。

親投資信託における組入資産の明細につきましては、後述の親投資信託の「運用報告書」をご参照ください。

<Bコース>

○投資信託財産の構成

(2022年11月18日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド	21,857,968	93.3
コール・ローン等、その他	1,557,343	6.7
投資信託財産総額	23,415,311	100.0

*金額の単位未満は切り捨て。

*ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（36,982,503千円）の投資信託財産総額（38,330,116千円）に対する比率は96.5%です。

*外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=140.29円、1スイスフラン=147.39円、1デンマーククローネ=19.56円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2022年11月18日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	23,415,311,784
コール・ローン等	387,343,255
ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド(評価額)	21,857,968,529
未収入金	1,170,000,000
(B) 負債	1,352,757,740
未払収益分配金	1,084,134,648
未払解約金	29,360,550
未払信託報酬	238,884,809
未払利息	609
その他未払費用	377,124
(C) 純資産総額(A-B)	22,062,554,044
元本	7,743,818,917
次期繰越損益金	14,318,735,127
(D) 受益権総口数	7,743,818,917口
1万口当たり基準価額(C/D)	28,491円

(注) 期首元本額は8,529,366,604円、期中追加設定元本額は787,898,964円、期中一部解約元本額は1,573,446,651円、1口当たり純資産額は2,8491円です。

(注) 投資信託財産の運用の指図に係わる権限の全部又は一部を委託する為に要する費用、支払金額285,154,822円。(ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド)

○損益の状況

(2021年11月19日～2022年11月18日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 52,742
支払利息	△ 52,742
(B) 有価証券売買損益	1,098,276,364
売買益	2,055,835,213
売買損	△ 957,558,849
(C) 信託報酬等	△ 465,175,484
(D) 当期損益金(A+B+C)	633,048,138
(E) 前期繰越損益金	2,978,275,920
(F) 追加信託差損益金	11,791,545,717
(配当等相当額)	(8,125,053,781)
(売買損益相当額)	(3,666,491,936)
(G) 計(D+E+F)	15,402,869,775
(H) 収益分配金	△ 1,084,134,648
次期繰越損益金(G+H)	14,318,735,127
追加信託差損益金	11,791,545,717
(配当等相当額)	(8,125,539,544)
(売買損益相当額)	(3,666,006,173)
分配準備積立金	2,527,189,410

*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

*損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

*損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

<Bコース>

(注) 分配金の計算過程 (2021年11月19日～2022年11月18日) は以下の通りです。

項 目	当 期
	2021年11月19日～ 2022年11月18日
a. 配当等収益(経費控除後)	28,086,732円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	604,961,406円
c. 信託約款に定める収益調整金	11,791,545,717円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	2,978,275,920円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	15,402,869,775円
f. 分配対象収益(1万円当たり)	19,890円
g. 分配金	1,084,134,648円
h. 分配金(1万円当たり)	1,400円

○分配金のお知らせ

1万円当たり分配金(税込み)	1,400円
----------------	--------

※分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合、分配金は全額普通分配金となります。

※分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合、分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金(特別分配金)となります。

※分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合、分配金は全額元本払戻金(特別分配金)となります。

○お知らせ

①ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンドの運用の外部委託先であるピクテ投信投資顧問株式会社の名称をピクテ・ジャパン株式会社に変更する所要の約款変更を行ないました。
 <変更適用日：2022年7月1日>

②信託期間を5年更新し、信託期間終了日を2028年11月20日とする所要の約款変更を行ないました。
 <変更適用日：2022年8月12日>

ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド

運用報告書

第19期（決算日2022年11月18日）

作成対象期間（2021年11月19日～2022年11月18日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

●当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行なうことを基本とします。 世界のバイオテクノロジー関連企業の中から高い成長が期待される企業の株式を医学・薬学的視点から調査、評価して、投資銘柄を選定します。 株式の組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
主な投資対象	世界主要市場のバイオテクノロジー関連企業の株式を主要投資対象とします。
主な投資制限	株式への投資割合には制限を設けません。ただし、未上場・未登録の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

野村アセットマネジメント

東京都江東区豊洲二丁目2番1号

<http://www.nomura-am.co.jp/>

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		参考指数		株組入比率	株先物比率	純資産額
	期騰落	中率	ナスダック・バイオテクノロジー株指数 (円換算ベース)	期騰落			
	円	%		%	%	%	百万円
15期(2018年11月19日)	46,400	△ 0.0	520.94	1.9	96.3	—	116,523
16期(2019年11月18日)	51,086	10.1	533.08	2.3	96.2	—	90,726
17期(2020年11月18日)	65,738	28.7	643.01	20.6	95.8	—	57,340
18期(2021年11月18日)	71,089	8.1	770.40	19.8	97.9	—	44,816
19期(2022年11月18日)	74,228	4.4	829.19	7.6	94.4	—	36,011

*株式先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

*参考指数（=ナスダック・バイオテクノロジー株指数（円換算ベース））は、ナスダック・バイオテクノロジー株指数（US\$ベース）を当社が独自に円換算したものです。なお、算出にあたっては、基準価額への反映を考慮して、営業日前日の指数値を営業日当日の対顧客電信売買相場仲値で円換算しております。
(出所) ブルームバーグ

○当期中の基準価額と市況等の推移

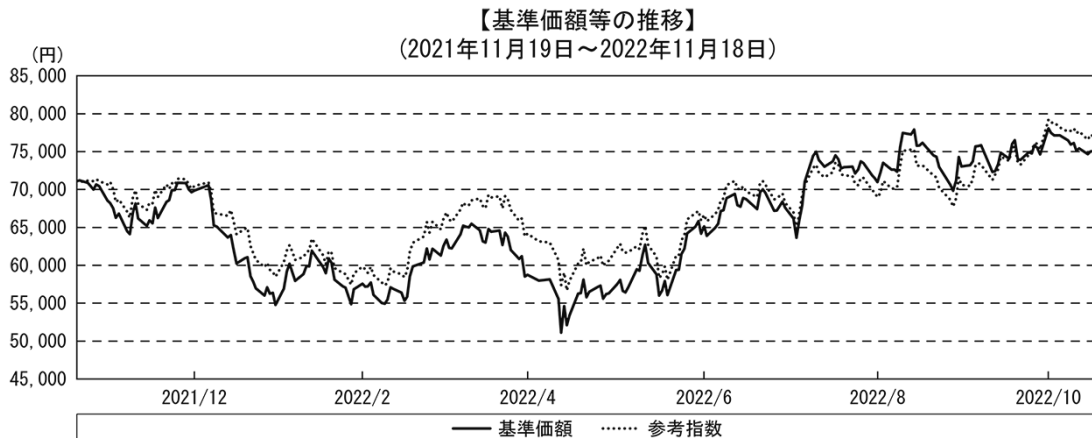
年月日	基準価額		参考指数		株組入比率	株先物比率
	騰落	率	ナスダック・バイオテクノロジー株指数 (円換算ベース)	騰落		
(期首)	円	%		%	%	%
2021年11月18日	71,089	—	770.40	—	97.9	—
11月末	68,210	△ 4.0	769.27	△ 0.1	93.6	—
12月末	69,861	△ 1.7	763.45	△ 0.9	97.5	—
2022年1月末	56,892	△20.0	654.22	△15.1	97.9	—
2月末	57,536	△19.1	648.19	△15.9	97.6	—
3月末	62,291	△12.4	715.57	△ 7.1	97.9	—
4月末	58,724	△17.4	695.24	△ 9.8	95.3	—
5月末	58,060	△18.3	680.81	△11.6	97.0	—
6月末	65,124	△ 8.4	722.32	△ 6.2	96.6	—
7月末	67,604	△ 4.9	739.31	△ 4.0	95.2	—
8月末	70,972	△ 0.2	747.16	△ 3.0	96.1	—
9月末	73,031	2.7	764.78	△ 0.7	95.9	—
10月末	78,041	9.8	858.23	11.4	98.2	—
(期末)						
2022年11月18日	74,228	4.4	829.19	7.6	94.4	—

*騰落率は期首比です。

*株式先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

◎運用経過

○期中の基準価額等の推移



(注) 参考指数は、ナスダック・バイオテクノロジー株指数（円換算ベース）です。作成期首の値が基準価額と同一となるように計算しております。

○基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首71,089円から期末74,228円となりました。

- (下落) 新型コロナウイルス向けワクチン開発企業が今年の売上げ見通しを引き下げたこと、ロシアによるウクライナへの侵攻を受け、バリュエーション（投資価値評価）の高い銘柄を中心に下落したこと、FOMC（米連邦公開市場委員会）で2022年3月の利上げ開始が示唆されるなど金融引き締めに向きを示されたこと
- (上昇) 3月のFOMCが市場予想と同じく0.25%の政策金利引き上げを決定し重要イベントを通過したこと、ロシアとウクライナの停戦交渉進展への期待が高まったこと、バリュエーションの高い銘柄を中心に買い戻しの動きが強まったこと
- (下落) FRB（米連邦準備制度理事会）理事が資産圧縮を「5月にも急ピッチで始める」と発言するなど、金融引き締め姿勢の強まりに対する懸念が広がったこと、物価上昇が業績への重石になるとの見方を示す企業が多く、企業業績への警戒感が強まったこと
- (上昇) 米大手製薬企業による買収報道が相次いだこと、4～6月期の企業業績の発表で市場予想を上回る好決算が相次いだこと、7月のFOMCにおいて市場想定通り0.75%の政策金利引き上げを決定し、過度な金融引き締め懸念が後退したこと、為替市場でドル高・円安が進んだこと
- (下落) ワイオミング州のジャクソンホールで開かれた経済シンポジウムにおいてFRBのパウエル議長がインフレ抑制を最優先に利上げを継続する方針を示したことで、早期の利

下げ期待が後退したこと、8月の米CPI（消費者物価指数）上昇率が市場予想を上回ったこと、インフレが抑制されるまで利上げを継続するという米金融当局の姿勢が改めて示されたこと

（上昇）9月の米ISM製造業景況指数が市場予想を下回ったことなどから、労働需給の緩和が期待され過度な引き締め懸念が和らいだこと、一部メディアが、米金融当局が年内に利上げペースの減速を協議する可能性を報道したこと、7-9月期決算が市場予想を上回った大手バイオテクノロジー企業の株価が上昇したこと、為替市場でドル高・円安が進んだこと

○投資環境

期中のナスダック・バイオテクノロジー株指数は、ロシアによるウクライナへの侵攻や、FOMCによる金融引き締めペースに対する市場の見方が不安定な状況が続く環境下、下落基調で推移しました。その後、米大手製薬企業による買収報道が相次いだことや、大手バイオテクノロジー企業の業績が好感されたことなどから反発しました。期末にかけては、7-9月期決算で良好な業績見通しを示す企業が相次いだことなどから続伸し、前期末比でプラスとなりました。

為替市場では、期初の114円台で始まったドル円レートは、日米の金利差拡大などからドルが円に対し上昇基調となり、一時は151円台までドル高・円安が進みましたが、期末には140円台となりました。

○当ファンドのポートフォリオ

・株式組入比率

期を通じておおむね高位を維持しました。

・期中の主な動き

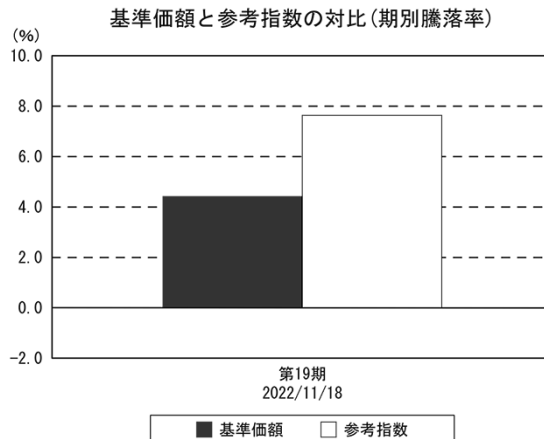
- （1）世界のバイオテクノロジー関連企業の中から高い成長が期待される企業の株式を医学・薬学的視点から調査、評価して投資銘柄を選定しました。
- （2）画期的、かつニーズが高く将来性が期待される薬品や既存薬にない特徴を有した薬品で、開発の最終段階に近づいている企業などに注目した他、バイオテクノロジー業界内で多くの新興企業の中から銘柄を発掘するなど、厳選した企業に対する投資を行なって参りました。
- （3）また、薬価問題への関心が高まる中、高いイノベーション（技術革新）能力と戦略的展望のある企業にも注目し、ファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）分析を行なった他、科学面および臨床データの評価や、未だ満たされていない医療ニーズの重要度、薬価や治療薬への患者のアクセスの妥当性、などを考慮し銘柄選定を行ないました。

○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

コメント・グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

参考指数としているナスダック・バイオテクノロジー株指数（円換算ベース）の7.6%の上昇に対し、基準価額は4.4%の上昇となりました。主なマイナスの差異要因としては、株価騰落率が参考指数を上回ったアムジェン株やバーテックス・ファーマシューティカルズ株などをアンダーウェイト（参考指数と比べ低めの投資比率）とし、株価騰落率が参考指数を下回った中小型バイオテクノロジー株などをオーバーウェイト（参考指数と比べ高めの投資比率）としていたことなどが挙げられます。



(注) 参考指数は、ナスダック・バイオテクノロジー株指数（円換算ベース）です。

◎今後の運用方針

○投資環境

足元のバイオ医薬品株式市場では、資金調達環境の厳しさも緩和しつつあり、M&A（企業の合併・買収）の動きが増加するなど良い兆候がみられ始めています。また、これから重要な治験結果の発表を控えていることも注目されます。

中長期的には、医薬品に関連する医療費についての議論が大きく変化していることがわかります。いくつかの国では治療の有効性に応じて医療費を支払う制度（価値に基づく医療）が利用されていますが、処方薬で最大のマーケットである米国においても、同様の制度を求める声は、ますます大きくなっています。医薬品企業と同様に、政府、規制当局、保険業者は、医薬品の開発においてイノベーションを抑制することなく、医薬品の費用を効率的に管理することができる妥協案を見つけることを必要としています。最も重要な利害関係者である患者は、破産のリスクにさらされることなく、高品質の治療を受けたいと考えています。これは、治療薬の開発といった科学的側面だけでなく、ビジネスモデルや先進的な思考、価値に基づいた契約といった側面においてもイノベーションを生む最高の機会となると考えます。

○運用方針

当ファンドは引き続き、堅固な事業基盤を有し、優秀な経営陣を擁する企業を厳選し、高いイノベーション能力と強い戦略的展望のある企業を選定することが、投資家の利益につながると考えます。綿密なファンダメンタルズ分析と科学面および臨床データの評価に加え、未だ満たされていない医療ニーズを満たすような薬や新薬候補を有する企業に注目していく方針です。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2021年11月19日～2022年11月18日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 49 (49)	% 0.074 (0.074)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式)	1 (1)	0.001 (0.001)	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	14 (13) (0)	0.021 (0.020) (0.000)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	64	0.096	
期中の平均基準価額は、65,528円です。			

*各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

*各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○ 売買及び取引の状況

(2021年11月19日～2022年11月18日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
外	アメリカ	百株 49,244	千米ドル 183,200	百株 52,612	千米ドル 258,828
	スイス	267	千スイスフラン 8,621	155	千スイスフラン 5,139
国	デンマーク	—	千デンマーククローネ —	151	千デンマーククローネ 41,055

*金額は受け渡し代金。

*単位未満は切り捨て。

○株式売買比率

(2021年11月19日～2022年11月18日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	60,388,245千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	36,641,582千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.64

* (b) は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2021年11月19日～2022年11月18日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2022年11月18日現在)

外国株式

銘柄	期首(前期末)		当 期 末		業 種 等
	株 数	株 数	評 価 額		
			外貨建金額	邦貨換算金額	
			千米ドル	千円	
(アメリカ)	百株	百株			
ALX ONCOLOGY HOLDINGS INC	464	—	—	—	バイオテクノロジー
AEGLEA BIOTHERAPEUTICS INC	2,731	2,731	325	45,607	バイオテクノロジー
ALLAKOS INC	439	—	—	—	バイオテクノロジー
ALNYLAM PHARMACEUTICALS INC	543	270	5,663	794,546	バイオテクノロジー
ALTIMUNE INC	—	755	664	93,221	バイオテクノロジー
AMGEN INC	510	189	5,437	762,818	バイオテクノロジー
AMICUS THERAPEUTICS INC	—	6,734	7,387	1,036,419	バイオテクノロジー
ANNEXON INC	1,823	2,035	1,168	163,919	バイオテクノロジー
APELLIS PHARMACEUTICALS INC	408	216	937	131,550	バイオテクノロジー
ARCUS BIOSCIENCES INC	1,781	1,028	2,957	414,882	バイオテクノロジー
ARCUTIS BIOTHERAPEUTICS INC	—	1,480	2,779	389,888	バイオテクノロジー
ARENA PHARMACEUTICALS INC	896	—	—	—	バイオテクノロジー
ARGENX SE-ADR	368	336	12,213	1,713,402	バイオテクノロジー
ARVINAS INC	498	431	2,287	320,891	医薬品
AURINIA PHARMACEUTICALS INC	659	—	—	—	バイオテクノロジー
AXSOME THERAPEUTICS INC	342	—	—	—	医薬品
BEIGENE, LTD ADR	193	118	2,368	332,281	バイオテクノロジー
BELLUS HEALTH INC	—	6,511	6,036	846,857	バイオテクノロジー
BIOCRIST PHARMACEUTICALS INC	—	4,257	5,203	729,950	バイオテクノロジー
BIOMARIN PHARMACEUTICAL INC	371	517	4,523	634,656	バイオテクノロジー
BIOGEN INC	490	356	10,777	1,511,925	バイオテクノロジー
BIONTECH SE-ADR	138	—	—	—	バイオテクノロジー
BLUEPRINT MEDICINES CORP	908	—	—	—	バイオテクノロジー
C4 THERAPEUTICS INC	990	—	—	—	バイオテクノロジー
CARIBOU BIOSCIENCES INC	2,181	3,018	2,741	384,552	バイオテクノロジー
CHEMOCENTRYX INC	1,367	—	—	—	バイオテクノロジー
CHINOOK THERAPEUTICS INC	—	784	1,669	234,195	バイオテクノロジー
CYTOKINETICS INC	2,669	1,594	6,431	902,208	バイオテクノロジー
DENALI THERAPEUTICS INC	1,107	847	2,454	344,354	バイオテクノロジー
DICERNA PHARMACEUTICALS INC	787	—	—	—	バイオテクノロジー
FATE THERAPEUTICS INC	1,203	1,243	2,500	350,851	バイオテクノロジー
GILEAD SCIENCES INC	1,991	1,829	15,295	2,145,831	バイオテクノロジー
GUARDANT HEALTH INC	321	325	1,577	221,299	ヘルスケア・プロバイダー/ヘルスケア・サービス
IGM BIOSCIENCES INC	1,016	—	—	—	バイオテクノロジー
I-MAB-SPONSORED ADR	866	—	—	—	バイオテクノロジー
ILLUMINA INC	221	367	8,258	1,158,530	ライフサイエンス・ツール/サービス
IMMUNOCORE HOLDINGS PLC ADR	—	99	640	89,898	バイオテクノロジー
INCYTE CORP	995	339	2,644	371,027	バイオテクノロジー
INSMED INC	3,234	3,182	5,897	827,418	バイオテクノロジー
INTELLIA THERAPEUTICS INC	147	530	2,598	364,602	バイオテクノロジー
INTRA-CELLULAR THERAPIES INC	—	600	3,040	426,586	医薬品
IOVANCE BIOTHERAPEUTICS INC	1,641	2,963	2,103	295,152	バイオテクノロジー
KARUNA THERAPEUTICS INC	214	143	3,256	456,911	バイオテクノロジー
KRYSTAL BIOTECH INC	676	637	4,890	686,040	バイオテクノロジー
KYMERA THERAPEUTICS INC	800	190	532	74,652	バイオテクノロジー
MERSANA THERAPEUTICS INC	2,410	—	—	—	バイオテクノロジー

銘柄	株数	当期		業種等		
		株数	評価額			
			外貨建金額		邦貨換算金額	
(アメリカ)	百株	百株	千米ドル	千円		
MIRATI THERAPEUTICS INC	248	219	1,592	223,425	バイオテクノロジー	
MODERNA INC	—	828	15,240	2,138,042	バイオテクノロジー	
MOLECULAR TEMPLATES INC	3,763	2,630	148	20,892	バイオテクノロジー	
NATERA INC	522	1,238	4,439	622,759	バイオテクノロジー	
NEOLEUKIN THERAPEUTICS INC	3,392	—	—	—	バイオテクノロジー	
NEUROCRINE BIOSCIENCES INC	332	355	4,084	573,081	バイオテクノロジー	
NOVAVAX INC	458	—	—	—	バイオテクノロジー	
NURIX THERAPEUTICS INC	1,047	861	1,124	157,806	バイオテクノロジー	
REGENERON PHARMACEUTICALS	317	167	12,379	1,736,732	バイオテクノロジー	
SAREPTA THERAPEUTICS INC	—	424	4,670	655,262	バイオテクノロジー	
SEAGEN INC	1,298	463	6,093	854,804	バイオテクノロジー	
SPRINGWORKS THERAPEUTICS INC	708	1,043	2,543	356,786	バイオテクノロジー	
TG THERAPEUTICS INC	2,708	—	—	—	バイオテクノロジー	
TURNING POINT THERAPEUTICS I	932	—	—	—	バイオテクノロジー	
UNITED THERAPEUTICS CORP	231	184	4,896	686,900	バイオテクノロジー	
VENTYX BIOSCIENCES INC	—	993	2,474	347,134	医薬品	
VERACYTE INC	975	838	2,267	318,174	バイオテクノロジー	
VERTEX PHARMACEUTICALS	1,116	378	11,719	1,644,127	バイオテクノロジー	
XENON PHARMACEUTICALS INC	—	1,854	6,206	870,697	バイオテクノロジー	
ZYMEWORKS INC	858	—	—	—	バイオテクノロジー	
BIOHAVEN PHARMACEUTICAL HOLDING CO LTD	799	—	—	—	バイオテクノロジー	
HORIZON THERAPEUTICS PLC	1,991	1,456	10,944	1,535,440	バイオテクノロジー	
KINIKSA PHARMACEUTICALS-A	3,776	2,566	4,035	566,071	バイオテクノロジー	
ADC THERAPEUTICS SA	1,320	965	387	54,319	バイオテクノロジー	
AFFIMED NV	5,164	2,870	602	84,567	バイオテクノロジー	
小計	株数・金額	70,382	67,014	233,116	32,703,958	
	銘柄数<比率>	59	52	—	<90.8%>	
(スイス)				千スイスフラン		
ROCHE HOLDING (GENUSSCHEINE)	—	111	3,428	505,370	医薬品	
小計	株数・金額	—	111	3,428	505,370	
	銘柄数<比率>	—	1	—	<1.4%>	
(デンマーク)				千デンマーククローネ		
GENMAB A/S	282	130	40,592	793,997	バイオテクノロジー	
小計	株数・金額	282	130	40,592	793,997	
	銘柄数<比率>	1	1	—	<2.2%>	
合計	株数・金額	70,665	67,257	—	34,003,326	
	銘柄数<比率>	60	54	—	<94.4%>	

* 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

* 邦貨換算金額欄の< >内は、純資産総額に対する各国別株式評価額の比率。

* 株数・評価額の単位未満は切り捨て。

* 銘柄コード等の変更があった銘柄は、別銘柄として掲載しております。

○投資信託財産の構成

(2022年11月18日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	34,003,326	88.7
コール・ローン等、その他	4,326,790	11.3
投資信託財産総額	38,330,116	100.0

*金額の単位未満は切り捨て。

*当期末における外貨建純資産(36,982,503千円)の投資信託財産総額(38,330,116千円)に対する比率は96.5%です。

*外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=140.29円、1スイスフラン=147.39円、1デンマーククローネ=19.56円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2022年11月18日現在)

○損益の状況 (2021年11月19日～2022年11月18日)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	39,729,467,794
コール・ローン等	4,137,134,050
株式(評価額)	34,003,326,676
未収入金	1,584,371,214
未収配当金	4,635,854
(B) 負債	3,717,943,089
未払金	1,667,941,386
未払解約金	2,050,000,000
未払利息	1,703
(C) 純資産総額(A-B)	36,011,524,705
元本	4,851,451,485
次期繰越損益金	31,160,073,220
(D) 受益権総口数	4,851,451,485口
1万口当たり基準価額(C/D)	74,228円

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	92,125,484
受取配当金	83,539,046
受取利息	4,426,263
その他収益金	4,359,115
支払利息	△ 198,940
(B) 有価証券売買損益	738,560,235
売買益	17,515,447,967
売買損	△16,776,887,732
(C) 保管費用等	△ 7,902,169
(D) 当期損益金(A+B+C)	822,783,550
(E) 前期繰越損益金	38,512,088,566
(F) 追加信託差損益金	17,183,254,199
(G) 解約差損益金	△25,358,053,095
(H) 計(D+E+F+G)	31,160,073,220
次期繰越損益金(H)	31,160,073,220

(注) 期首元本額は6,304,281,589円、期中追加設定元本額は3,065,019,801円、期中一部解約元本額は4,517,849,905円、1口当たり純資産額は7,4228円です。

(注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本額
 ・ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Bコース 2,944,706,651円
 ・ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Aコース 1,906,744,834円

*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

*損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

*損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

○お知らせ

運用の外部委託先であるピクテ投信投資顧問株式会社の名称をピクテ・ジャパン株式会社に変更する所要の約款変更を行ないました。
 <変更適用日：2022年7月1日>